

電子制御エンジン 3UEC33LS II-Eco 形機関完成

国立大学法人東京海洋大学向け実験実習装置用船用ディーゼル機関

(出力 1,275kW、回転数 162min⁻¹、シリンダ数 3、シリンダ径 330mm、ストローク 1,050mm)

この度、当社は国立大学法人東京海洋大学向けの実験実習装置用船用ディーゼル機関として赤阪-三菱 UE ディーゼル機関 3UEC33LS II-Eco 形初号機を完成させ、工場での試験運転を完了しました（機関名称末尾の Eco は Electronically Controlled Engine-電子制御機関-を示します）。

UEC33LS II-Eco は、当社で 100 台の製造実績がある UEC33LS II 形機関をベースに、燃料噴射装置、排気弁駆動装置、始動装置及びシリンダ注油装置を電子制御化した機関です。

開発元の三菱重工業(株)は、船用 2 ストローク機関 UEC-LS II 形、UEC-LSE 形シリーズの電子制御機関の開発を順次進めています。本機関の完成により大型機関から小型機関までの電子制御機関のフルラインアップ化が加速されました。

納入先の東京海洋大学海洋工学部内燃機関工学実験室（越中島キャンパス）は、船用 2 ストローク機関及び運転に必要なプラントを使った実験実習ができる公的機関では国内唯一の陸上実験設備を所有しています。この設備を使用し、実際の機関運転状況下における実習をすることで、実物の機関プラントを操作する知識と技能を身につけることが可能です。この設備で実習を積んだ多くの学生が、卒業後に船舶関連やプラントなどの各分野で幅広く活躍していますが、今回の最新鋭機関の導入により、これまで以上に広範囲な研究活動が行なわれ、日本のさらなる発展に寄与する優秀な人材の輩出が期待されています。

